

がんばれ! わが町

みつかいどう  
笑顔マッピング・  
プロジェクト  
(常総市)

# 笑顔は活性化の資源 みつかいどうの笑顔マップ



町のみんなを元気な笑顔にしよう。こんなユニークな取り組みが、昨年末、常総市水海道地区で行われました。その名も「みつかいどう笑顔マッピング・プロジェクト」。県内だけでなく県外からも大きな注目を集めました。このプロジェクトにけんしん水海道支店も参加。職員をはじめ、最初は恥ずかしがっていた地域の人々の間にも、いつの間にか笑顔があふれてきました。

水海道といえば、かつては県西の中心地として栄え、交通の要所のひとつでした。「水海道にいけば何でも揃う」と、今もお年寄りたちはにぎやかだった昔を懐かしそうに振り返るといいます。しかし、この20〜30年、近隣に大型商業施設などができ、市街地は空洞化、しだいにシャッター街が目立つようになりました。

平成18年に石下町と合併して常総市になり、数年前からは坂手工業団地にブラジルなどからの外国人が就職するようになって、町の様相も変化してきました。そんな町を活性化しようと立ち上がったのが常総市商工会青年部のみなさんです。最初に手がけたのが外国人との国際交流を目的に平成16年に始めた「水海道ワールドフェスタ」でした。

そして「みつかいどう笑顔マッピング・プロジェクト」は、平成19年のフェスタで実施され

た「笑顔写真家」の中村年孝さんによる来場者の笑顔写真撮影会がきっかけでした。「このみんなの笑顔が町の活性化に役立つのでは」（商工会青年部副部長、山崎哲男さん）、「笑顔を商店活性化の資源と捉えて、『笑顔マップ』を作れないか」（商工会総務振興課長、鈴木卓弘さん）。こうして「みつかいどう笑顔マッピング・プロジェクト」が開始しました。

商店街の活性化を図る団体に活動費を補助する「商店街活性化コンペ事業」に応募。みごと平成20年の最優秀賞に選ばれ、茨城県から130万円の補助金を得ることができました。事業内容は、①笑顔写真撮影会、②笑顔開発講座、③笑顔マップ展、④笑顔マップ制作、⑤笑顔スタンプラリー、と笑顔づくしです。なかでも、④と⑤が最もインパクトがありました。どこに行けばどんな笑顔に出合えるか一目でわかる「みつかいどう笑顔

マップ」。大きな水海道の地図に店主やその家族の満面の笑顔を入れたものです。これを2万部作成し、各商店などに配布しました。

スタンプラリーでは各店舗にハガキを置き、その店の笑顔スタンプをもらい、3つ集まったら抽選で商品が当たるという形式にしました。昨年10月から12月までの2ヵ月間実施した結果、645通の応募があり、クリスマスに青年部のメンバーがサンタクロースに扮して当選者の自宅に商品を届けにいったそうです。



常総市商工会青年部のみなさん

けんしん水海道支店の支店長

宮本保典さんは「水海道は個人商店が今もがんばっている町。農業がさかんな一方、県内ではブラジル人が最も多いという土地柄です。笑顔プロジェクトは町の活性化のためにとってもいい企画。けんしんも参加することにしました」と話します。

水海道支店で笑顔の写真に選ばれたのは、今年入社3年目の齊藤敦子さんです。預金係として働く齊藤さんの笑顔をかたどったスタンプも作りました。「私は両親が共働きで祖母に育ててもらいました。地域に密着



笑顔マップをつくる



旧報徳銀行で開催された笑顔写真撮影会



笑顔開発講座で笑顔の実践



いっぱい笑顔が地図を埋めた



常総市商工会の鈴木さん（右）と商工会青年部の山崎さん



笑顔の宮本保典支店長



けんしん水海道支店職員も笑顔がいっぱい

し、お年寄りに親切なけんしんに就職できたことで、少しでも祖母への恩返しができたらいいなと思ってきました。が、今回、笑顔スタンプに選ばれて光栄です」

金融機関は商店と違い、ふだんはぶらりと立ち寄るお客さまはあまりいないようですが、「おかげで『スタンプを押しにきましたよ』といって気軽に入ってくださるお客さまもいらっしやいました。ご来店へのきっかけづくりにもなったと思います」と宮本支店長。

商工会の鈴木さんも「第一に

お店に入りやすい環境を整えられたこと、そして新規の顧客を開拓できたことがよかったことです。それだけでなく、顧客にとっても今まで行ったことがないお店の発見につながったことなども目に見える効果だったと思います」と語ります。

しかし、それ以上に大きかったのは「私たち自身の意識が変わったことでしょうか。私たちが生き生きとした笑顔で仕事をすることで、その姿を見た子どもたちも笑顔になった。それがいちばんの収穫であり、新たな発見だったと思います」（青年

部の山崎さん）。

実際、みんなが笑顔を意識することだけで、商店街にどれだけの活気が戻ったか数値化することはできません。でも、山崎さんはプロジェクト後に取ったアンケートの中にこんな一文を見つけ、それだけで胸がじんんと熱くなったそうです。

「2008年、何もいいことがなかったけれど、最後にみなさんの笑顔に会うことができました。ありがとうございます」  
青年部では今後も笑顔をキーワードにした取り組みを行っていきたいと考えているそうです。